

全共内通信

創刊号
11/20

全学共内会議書記局

日さは何が起つてゐるのか？

あつての事を語らう。

實のみを指^指しておきたい。

まづヤ1氏は、学内に10月以降も各種の暴力行為が残

つ日の日付で郵送された「全学への訴え(その2)」
 なる文書において、大学当局は、彼らが従来一貫して
 となつてきた態度に自らの責任を不向に付し、それ
 を「引きつらたのに、一切の責任をあげて全共内へ転荷
 し、学内の右翼的部分へ民衆 殺害派」に依頼して公
 正化(旧体制復帰、大学法の完全更動化)を推進
 し、そのことによつて先進的部分と、彼らに領導され
 た即等を圧殺していく。また、その物理的保障として
 国家の武装暴力機動隊を派遣させ、彼らを駆使して
 学内の改革をその前途のうちにつみとる(例えば理學
 部における指導入士トライキの圧殺)といった態度
 を、更に徹底的に押し進めることを明言してゐる。

こいわざを得ない。われわれは、彼らのそのような
 態度を叩いて許さず、断固とした意志で、再度反

「全学への訴え(その2)」に対する徹底的批判は、近々
 書かして公表するつもりである。「二」では、その向

おやての学友諸君。

昨日の夕方にも明りなにしたように、市大生支部
隊は、約百名の隊列をもって、佐藤訪米阻止
田現地斗争に決起した。マルコフアジの総力をあ
げだ阻止線を、われわれは、ついに突破しえなつた
けれども、あの斗争で至願したわれわれの八咫鳥怒
は、八挫折怒とは無縁である。

われわれは、斗争の中で鍛えられた祖伝性と戦闘性
を強固に養成させ、当局の弾圧路線に打ち勝つてあ
る。なお、本日、一時より、全女團書記部
於て、訪米阻止斗争報告集会を開く。おやての学友に
参加をまびなける。

佐藤訪米阻止斗争報告
集会に結集せよ。

本日（20日）

11時

全女團書記部（新体育館）

○おやての学友は全女團
に再結集し、大学当局
の暴力的学生統制体系
を粉砕せよ。